

**米国の「切磋琢磨型」  
大学院教育と人材育成としての  
ポスドク・フェローシップ**

**—日本はどうすべきか？—**

**東京大学 先端科学技術研究センター  
教授 菅 裕明**

# アウトライン

## 切磋琢磨するアメリカの科学者たち

[http://www.kyoritsu-pub.co.jp/shinkan/shin0410\\_07.html](http://www.kyoritsu-pub.co.jp/shinkan/shin0410_07.html)

共立出版 (1,800円)



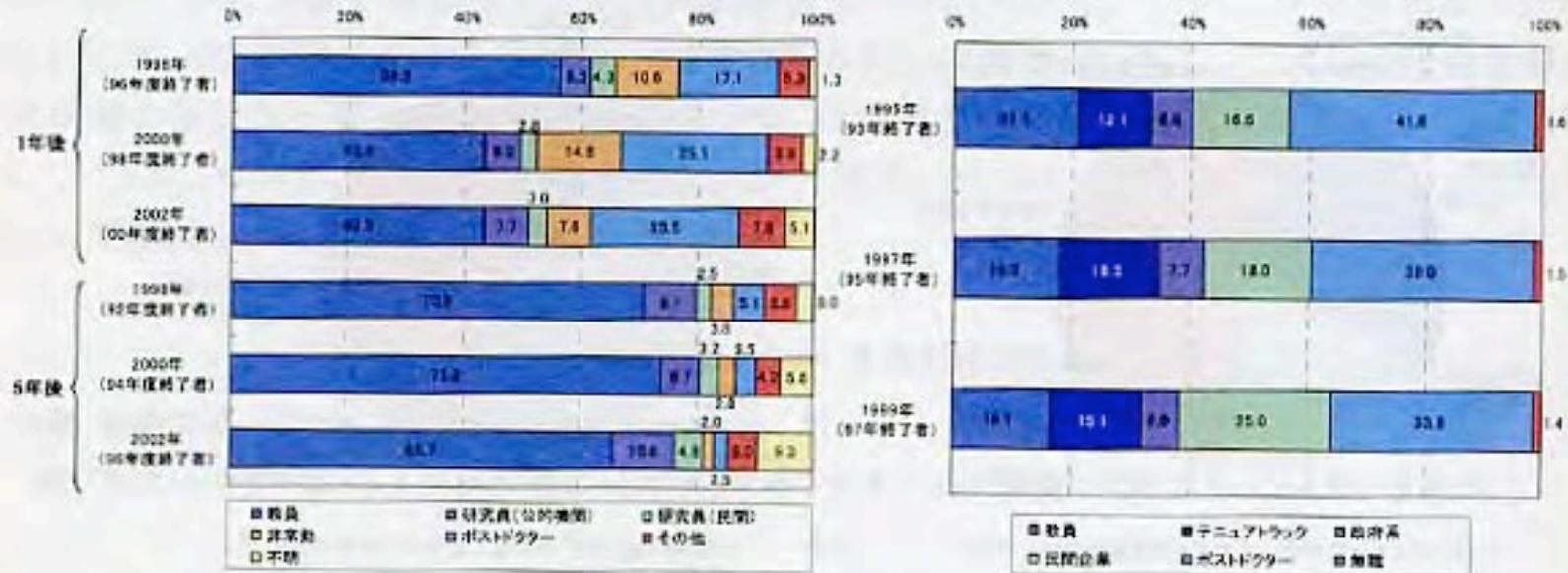
- 米国の大学院教育の概要
- エリート研究者人材育成を目的としたNIHにおけるポスドク・フェローシップの申請と審査（実例）

# 日本と米国ポストドク研究者の進路比較

図表 V-6 ポストドクターの進路(日米)

(a) ポストドクター終了1年後、5年後の進路  
(日本学術振興会 PD)

(b) ポストドクター終了2年後の進路(米国)



注 : 日本の「教員」には、大学教員、高等専門学校教員及び外国の研究機関研究員が含まれる。  
 注 : 米国の「教員」には、4年制大学におけるテニュアトラック以外の教員と4年制大学以外の教育機関(初等中等教育機関、短期大学等)の教員が含まれる。  
 出所 : <日本>日本学術振興会資料  
 <米国>NSF, "Survey of Doctorate Recipients"より作成